

早計の一步は、大道を崩す。共同通信 PR ワイヤーの報道について

東亜大学学長 櫛田宏治

共同通信 PR ワイヤーに株式会社テクノグローバルより掲載された、1) 2017 年 10 月 13 日及び 2) 同年 11 月 20 日づけの「テクノグローバルー産学連携強化のお知らせ」は、いずれも事実を反映しておらず、現在撤回いただくことを求めています。

- 1) 学校法人東亜大学学園は株式会社テクノグローバルと、将来の日本の産学連携の先端を目指して意見交換をすすめた時期はありましたが、諸般の事情から「覚書を締結」するに至っておらず、関係者間の連絡の不備も重なり、間違った報道となっています。
- 2) また東亜大学（学校法人東亜大学学園）は株式会社テクノグローバルと「研究・開発にかかわる持続的な関係構築を協議する」段階にいたっていません。

当大学は御記事のとおり、「下関というアジアの玄関口で国際的な教育・研究を行い、また世界水準の先端技術を西日本より発信し、地方創生のモデル地区となる」ことを目指しています。かつ、その研究開発の拠点としての東亜先端技術研究所（学校法人日本医療学園の主導する）の構想に、当大学は学術研究の方面から積極的に参画する所存であります。だがその構想はまだ公表、具体化する段階ではありません。そのような段階で、株式会社テクノグローバルの積極的支援を受けるための協議に東亜大学が参加するわけにゆきません。

小よく大を制す。東亜大学（学校法人東亜大学学園）は、下関にある地方大学であります。が、「いのち・健康・創造の総合大学」を唱い、日本と東アジアの青年への高等教育に専心する一方で、未来の大学として、21 世紀の産学連携による先端的諸事業に参画することを目指してきました。そのためにも、大きな展望と自らを律する自制心をもって事に臨むことが必要であります。徒らに前のめりせず、成したことと成し得ることを誠実に見分けながら、一步一步前に向かって踏み進んでゆくことは校是でもあります。

東亜大学（学校法人東亜大学学園）は、今般の株式会社テクノグローバルの当大学への期待と提案に曇りなきものであることを承知していますが、現状を反映しない過剰な認識は、双方にとってかえってマイナスになりかねないことを案じて、今回の関係 2 記事を取り下げさせていただくことをお願いすることにいたしました。